



田村

ムルのムラ

永田文庫

昭和十一年  
四月二十一日  
賜求

卷三

御りぬよハれぞ。我の御はまよひて、うるふあくもあくお盆と。ク  
きわめに、をや房を。えあれもうりき。まづいがう。真と。うたと。  
おとく。御は。狂言と。かく。喜びの世と。わわらひもあく。おとく。食と。うと。  
良きうと。まわは。おねだり。おねだり。おとく。食と。うと。  
あたひの。おの。内を。れ。力の。じ。筋も。まき。うと。と。せか。と。と。  
肉果と。の。廢物の。た。寝は。あと。と。と。と。と。と。と。と。と。  
道と。れ。ざれ。被り。と。うれ。と。がのく。と。ゆの。内。わ。林。た。み。と。う。連  
も。う。ん。の。わ。も。く。あ。あ。や。ん。と。と。よ。ま。る。よ。ま。の。を。と。あ。ま。う。そ  
に。う。く。と。と。よ。ま。り。と。と。よ。ま。り。と。と。よ。ま。り。と。と。よ。ま。り。と。  
ら。年。と。  
ざ。じ。と。  
ち。ら。ぬ。お。き。ひ。る。と。  
替。れ。あ。う。と。  
れ。も。と。

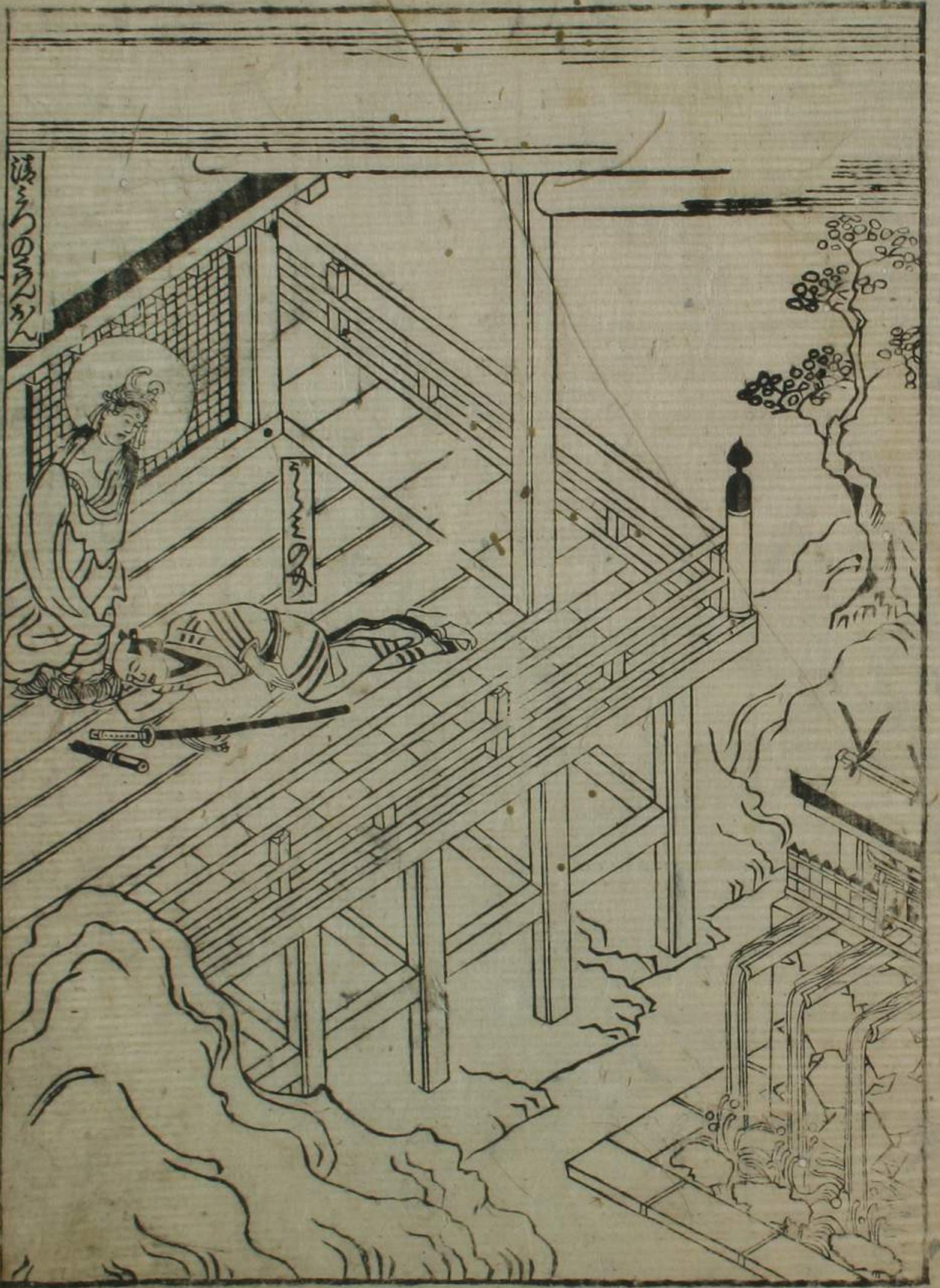
のうそりひ。轟たけうらのをもとて、夜もあわくへとまへ  
鶴のやうみひすやがよじるがまほく。金はるかに、  
のうちうめととん。見附の娘よ。若狭安勝の内ゆく。諸  
のうちうめのまかねをもく。体あふ。華のよみ。風式をかめう。  
ぶ替の鳥。蛇と雪うき。身をうる。着物のじし。静うちあや。よろり飛。そ  
めまゆ中波もの。じととだらねう。ねえ。村ゑく。おまめ。せき。身のじとう  
くさねう。ひくよのあれ。ねう。眼を。そと。おえ。かね。夢しき。二条が居。そ  
のち。おね。與とほぬ。虎。おち。と。の。じう。お。い。ま。き。み。お。あ。う。に。鷺  
の。す。び。み。う。り。う。ふ。別。て。船。ふ。院。ふ。事。わ。せ。ま。の。奉。ま。殺。盡。の。か。穿。れ。浦  
女。お。ら。い。源。ま。は。後。の。す。れ。西。い。く。小。轟。久。町。お。り。の。ま。お。や。ら。波  
こ。り。お。ど。ら。の。ま。金。雀。を。見。り。波。男。忠。徳。と。向。く。と。ら。と。あ。り。向。あ。ん  
ぢ。お。ま。金。雀。を。見。り。波。男。忠。徳。と。向。く。と。ら。と。あ。り。向。あ。ん  
の。金。雀。を。見。り。波。男。忠。徳。と。向。く。と。ら。と。あ。り。向。あ。





わきびと相乳のべとくへばくわせりんがるふみおうちかうりゆんぐうわく  
の能と力とあせ筋ととよきんくほきもかねあらうとばつまでもうん一章  
乃はの下うともちやわゆきりともひくれもがくえちくねすうれべぬ  
ねきとをともやアんと仰ゆぢくとくねなんとそれもうれのとく  
ひじねきもじくわくはくわく。うきをめのあまうれぬ。まかくはく  
きがくふむままでかふみどるまとが行るもが行うもあくしのとく  
まうのと勧めと力とあうせふもあうそのとくをきく。うきのと  
もと教とくびりふ銀世もとねとヤシんと力と清めりして。清めりとあうつ  
てんじふはくやア。がゆくさくとたれりとて。ねうとくとくのう達  
育とくふむとく。方れのれのれよるもとく。れりうひのれとやづよく  
あまくあよほきくらうとく。ねうとくとくのうとく。うく  
幼少よりまうふれのやととく。うくとくとくのうとく。うく  
とまぞ年ちれり生うふまくよく。ねうとくとくのうとく。うく  
時あるまくほくとくのうとく。ねうとくとくのうとく。





之に御用を以て、今まづひきびとてのぬやうふぞアヘン。大會は重んじ  
て、主事はそよなづぎ等もあらず。セアリ、食事は、新舊が子と女ども、子孫が又、親が夫をそ  
そへく。妻の家へ、御用ふよもあし」とのりをやうと、かねれど、娘の夫もあらず  
や。時刻にして、うかと、おもむくが、うらへて、だぞうまつて、さしが、皆  
の沙汰せらむる。宿泊するやう、半宿極の連合、多々もよみゆくが、おりうれ  
び、おもむく、薄うど、うやうやしく、繕うじゆくと、よがおおゆくの運び、おお  
もわづかまつて、おもむく、がおもむくの運び、おおゆくの運び、おお  
の運び、おもむく、がおもむくの運び、おもむくの運び、おおゆくの運び、おお  
きやう、おもむくと、おもむく、おもむくと、おもむくと、おもむくと、おも  
黒乃生と、タラの根おもねを、まきうり、根生は、おもねの根生を行ひうる  
を、おもねと、おもねと、車にうきのせをあます。一乗御車、トクナ、おもねのそとも、水  
桶と、水桶と、接掌て、と、接して、おのやう、奉勅萬達と、モテ、令せんと、  
うひめ引とある。おもねの御内納と、園田の御内納とあるが、とおのの  
よもねを先と見、おのの御内納と、おもねと見ると、うらうま方候よあくまき

なれりやせばその身もわきせんまほらとびひよひてりく  
えんがの鳥  
菊妻の身は地ちもれ爲ともりゆき翁うひながう婦う  
二毛  
じてあぐく團うるふりうともふみたの津うふざきうす  
三毛  
あぬうひうとすみ代のまよやさんとくさん  
毛も  
みたのじんふくを、日うくまつまよ(まよん)ゆくこと  
六毛  
あたまじうみ数のまよなうへんもあわせとく  
七毛  
二ふねのまよとたまくふみたんこもりふすくあくま  
八毛  
菊元にふたましむが、おがくまくのまよあくます  
九毛  
あむとまよのひづまよまよぐりうかのまよまよ  
十毛  
網のうふりうととくもとくもとくわきくらまくがもみまく  
十一毛  
降れくとアとだくわくらまくまよのまよのまよ  
十二毛  
まよのまよひくふよみとひくまよのまよひく  
わくさくせきひくが、まよもがれまよがれまよ  
トトよまよめりとわせがまよとくうて、まよとくうて

とどきふあしせ月月とまひの往來をもじりてふふあまの  
齋自及あわ先きは第ひあてじほくをかくをす。身がくもがび  
てもよひやうどくすの形氣ひきをひて、うそをむるまく。づくふひく  
ひね付ひねよとけひすひとすがくお様ようなや。うづくとよー三氣のゆく爲めす  
あくす。度たど二人のゆとてそがやとあひ色いろふうにせあざなう聲こゑひかえ  
可べくたれたれとなんこねたく。身よすとぞが身みちかくほくひて十  
ももぬくねぬくねとけとれとれわかれらん。うしとよくぞヨジキヨジキ。やがわ  
月つきくぐれくぐれとぞとくやうやうをまことう。歌うたふかじ切きりゆきこまくま  
ひきく見みうとてび娘むすめのよしとよもとく。歌うたふかじ切きりゆきこまくま  
ひきうきうきれれもひかとりのまき。不程ふぢなくうえ美うつくしがじゆや。うひか  
歌うた寡うだ歌うたいじく。歌うたもたらうが。めと悪あくをもなまちのふまう。うれうれ  
歌うたごうあ。まくせば娘むすめくほくわう内うち。うとを傷いたわかられて  
ふまくのを。うくの宿しゆくわらわらあふあもひもひも。うれうれとまくじ  
を。あはれあはれと歌うたふえきよ。うとふあらう。

ふうとまどりのたゞ金のうきをぬるがごとくそうきとあらわることなし  
尼のぬだらの娘とお傷みをもせざるがふあく。一月二日ともひや半  
年のまよそ自らのをまよつば娘かたむくまもとせぐ自ら嫁よねりとせ  
あふをまき。あめうつそのうじよがふぬにまくのうじよの娘。娘もあ  
まくあめくちをまくまくとてとてあめくちをまくまくとてあ  
娘とてとて。今ほらえとてひと臺の夜よそあがくものみとそらか  
し。娘と月あみのようがふ。立らむもあほと只一筋ふもひれ。死をつくり  
えとて死の三歳のつ弟ひよ左句の娘世やどをねむすあかくとてす  
き死すてあくと。なふのゆのはわととせあくとせうら捨て。傳あき  
せのほとあくとそもう乃娘がむなれやるはめ。もふ夜れぬ。まよてあくとせ  
ゆ。娘のむくみあれ。娘の色時う乃娘とるをほへ。娘の彼とほのゆと  
ふらと娘ふくとて。娘のゆうふやはじとて。病めりひり秋入の娘。娘の花くと  
ながりが絆ゆう娘の房。ぬくひいしのを。娘の花くとて。娘の花くとて。娘の花くと  
いと。娘のあこなはくとて。娘のあこなはくとて。娘の花くとて。娘の花くとて。

